

活用する力を育成する個に応じた取組の実践例

～B問題で正答率が高い中学校の例～

学校紹介

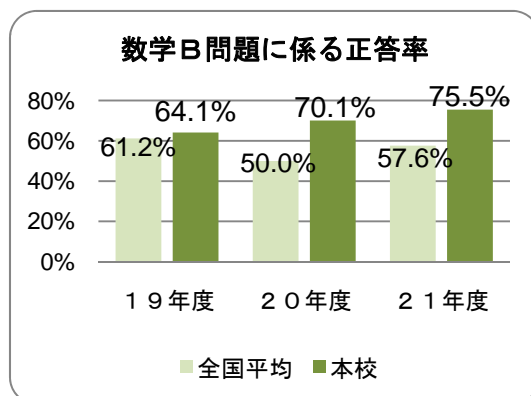
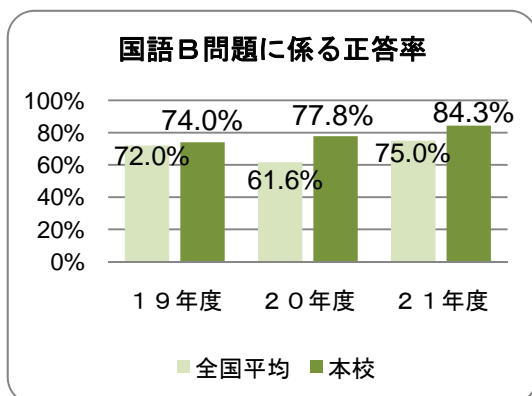
学校種	中学校（昭和22年開校）		
校区内小学校	1校		
学級数 生徒数	計3学級 （約60名）	第1学年 1学級（約20名） 第2学年 1学級（約20名） 第3学年 1学級（約20名）	
教職員数	17名	校長・教頭	各1名
		教諭	7名（うち、養護教諭1名）
		事務職員	1名
		講師	3名
		相談員	2名
		校務員 ALT	1名 1名
備考	へき地教育振興法に基づくへき地学校 1級		

○学校の特徴

本校は山間部のへき地にあり、生徒数は各学年20人程度と少数であるが、豊かな自然環境の中、落ち着いて学習に取り組んでいる。校区内の小学校と連携し、教科学習だけでなく、キャリア教育や総合的な学習などについても、9年間を見通した系統的な指導計画を立て、取り組んでいる。

また、伝統芸能の指導を受けたり、福祉施設等を慰問して合唱を披露したりするなどの地域の住民との交流活動を盛んに行っている。

全国学力・学習状況調査の結果における特徴



国語、数学ともに、正答率が全国平均を上回っているが、特にB問題における傾向が顕著である。

本校では、基本的な学習習慣の定着を図るとともに、授業の中で、一人一人の生徒が積極的に学習に取り組めるよう、個に応じた課題を設定し、話し合い活動や個々の考えを深める活動等を取り入れていることが、この結果につながったものと考えている。

生徒に主体的に学習に取り組ませるための指導

本校は、全学年が単学級であり、学級の生徒数も少ないので、一人一人の学習意欲や学習に対する意識が、全校の雰囲気大きく影響していると考えている。

そこで、本校では、生徒に主体的に学習に取り組ませるために、①確かな学力を身に付ける、②仲間とともに高め合う、③意欲をもって取り組む、の3点を生徒への指導目標として掲げている。この3点を授業に取り入れて、小規模校ならではの特色を生かし、一人一人の生徒に丁寧に指導を積み重ねている。(詳細は次頁以降参照)

確かな学力を身に付ける

本校では、授業の中で一人一人の生徒の実態に応じた手立てを講じることで、確かな学力を身に付けさせることができていると考えている。

そこで、全教科において、新しい単元に入る前に、一人一人の習熟の状況や学習意欲などの実態を把握し、各教科の評価規準に照らし合わせて、力を伸ばす手立てや生かす手立てを立案し、単元指導計画の作成や、毎時間の発問や助言、評価等に反映させている。

この積み重ねによって、一人一人の生徒の活動の状況や課題が明確になり、教員の目がより行き届くようになり、生徒は生き生きと授業に取り組むことができるようになる。

仲間とともに高め合う

本校では、生徒が互いの意見を交流したり、評価し合ったりする中から、自分の意見や考えを見つめなおし、他の意見や考えを尊重し、柔軟に受け入れていこうとする姿勢が養われていくと考えている。

このような活動を多く経験することで、生徒は自分の取組に自信や向上心をもてるようになり、学習に対する意欲や学力を高めることができる。

そこで、授業の中で、小集団活動など生徒同士がかかわり合う場面や意見を発表し、評価し合うような活動を多く設定し、仲間とともに学習に対する意欲や学力を高め合えるようにしている。



意欲をもって取り組む

本校では、様々な活動場面において、目的を明確に意識して、自主的に活動することが、学習に対する意欲を更に高めると考えている。

そこで、生徒会活動の一環として、生徒が主体的に学習を進めるための「学習部」をつくり、学習部が、教員の指導の下で、授業態度の向上などの呼び掛けや、学習目標の確認、それに対する評価などを行っている。

この活動によって、生徒が授業態度を自ら改めたり、仲間の模範的な姿を自分の行動に取り入れたりする場面が自然にみられるようになり、一人一人の学習に対する意欲が確実に高まってきている。

確かな学力を育てる取組

○詳細な実態把握に基づく、個に応じた指導計画

①単元ごとの、個に応じた具体的な手立ての立案

本校では、新しい単元の学習に入る前に、生徒一人一人の知識・技能の習得状況や、関心・意欲・態度などを十分に把握し、以下のような一覧表を作っている。

この表の内容は、毎時間の授業での指示や発問等に細かく反映させている。

- ・ アンケートによる、関心・意欲等の把握
- ・ 単元テストによる、習得状況の把握
- ・ 授業中の行動観察
- ・ ノートの記述状況 …などから生徒の実態を分析

「個を伸ばす手立て」

各生徒の苦手な分野や活動に対して、個別に認めたり助言したりして、学習意欲を高め、力を伸ばすための手立てである。

「個を生かす手立て」

各生徒の得意な分野や活動において、様々な力や特性を発揮する機会を与えて、学習意欲を高め、力を伸ばすとともに、学級全体を活性化させる手立てである。

生徒名	国 関 意 態	話 聞	書	読	言 知 理 技	
A	○	○	△	△	○	初期の指名や挙手できた時の発言内容を認め、自信を持たせる。
B	◎	○	○	◎	○	発言内容の良さを価値付けて、他の生徒が考える際の方向付けをする。
C	○	○	○	△	△	初期の指名や挙手できた時の発言内容を認め、自信を持たせる。
D	◎	○	△	△	○	発言の中身を価値付けて、本人の方向付けをする。
E	△	○	△	△	○	机間指導で丁寧に文字を書くように指示し、できたら認める。
F	◎	◎	◎	○	◎	ペアや班学習での良い発言などを、全体で紹介して共有する。
G	△	○	○	○	○	机間指導を複数回行い、助言をしたり励ましたりして発言させ、意欲をもたせる。
H	◎	◎	◎	◎	◎	ペアや班学習での良い発言などを、全体で紹介して共有する。
I	△	○	△	△	△	机間指導を複数回行い、自分の考えをもてるよう助言する。
J	△	○	○	△	△	真面目な態度を評価しながら、個別指導で方法等を的確に理解させる。
K	◎	◎	◎	○	◎	全体学習の中盤や挙手が沈滞した時に指名し、話合いを活性化させる。
L	○	○	○	△	△	積極性を認めながらも、意見が課題からそれないように指名などの配慮をする。
M	◎	○	○	○	◎	積極的に発言内容も良いことを認め、全体学習の方向付けをする。
N	◎	○	◎	◎	○	積極的に発言内容も良いことを認め、書いたまとめを発表させ、みんなの参考にさせる。
O	△	○	△	○	○	机間指導で複数回声をかけ、励ましたり発言を促したりしながら意欲をもたせる。
P	△	○	△	○	△	初期の指名に解答したことなどを認め、意欲を継続させながら、自信をもたせる。

▲【国語科 第2学年】文学的な文章の単元に入る前に確認した個への手立ての一覧表
(左の観点別の評価表は、前の単元までの取組を基に作成)

上の表で示すように、テストやアンケートで得た生徒の情報を基に、各観点について3段階で評価するとともに、一人一人に対して、「個を伸ばす手立て」や、「個を生かす手立て」といった指導方針を立てておく。

次に、これらの方針を、よりの確に授業に反映させるため、生徒を4つのグループに分け、実態に応じた教科指導を計画する。(次頁参照)

確かな学力を育てる取組（つづき）

②毎時間の授業の、個に応じた具体的な手立ての立案

個々の生徒の習熟の状況や実態に基づいて、生徒を、図のようにグループ化し、単元ごとに立案した各生徒への手立てを、より詳細に立案し、授業に反映する。これらのグループは、教員が個に応じた指導をするためのものであり、実際の学校生活における班とは異なる。

【グループ①への「個を伸ばす手立て」】

一人読み（個人学習）での机間指導を複数回行い、助言や励ましをして意欲を持続させる。本時では、挙手した時はもちろん、挙手がなくても指名して答えさせ、満足感を多く味わわせる。

【グループ②への「個を生かす手立て」】

読み取ったことを、積極的に発表させる。表現することの喜びを味わわせることによって、意欲を更に高める。また、特に、ペアや班の学習では、グループ③やグループ④の生徒とかかわらせる。

▶ 文学的な文章の単元におけるグループごとの実態例
【国語科 第2学年】

読むこと	グループ① 生徒 G,O	グループ② 生徒 B,F,H,K,M,N
	グループ③ 生徒 E,I,J,P	グループ④ 生徒 A,C,D,L
観点	関心・意欲・態度	



▲ 学び合いの場における助言

【グループ③への「個を伸ばす手立て」】

机間指導で、課題にかかわる言葉に線を引かせ、それらを手掛かりにして他の言葉も見付けるよう助言する。机間指導は複数回行い、書けるまで見届け、認めて励まし、自信をもたせる。

【グループ④への「個を伸ばす手立て」】

一人読みでの机間指導で助言し、書けるまで見届け、ペアで確かめさせるなど、全体学習の前の段階で修正点に気付けるようにする。グループ②の生徒の考え方や発表の仕方を目指にするよう助言する。

学習指導案では、グループ単位での「個を伸ばす手立て」・「個を生かす手立て」を列挙しているが、特にグループ③の生徒に対しては、一人一人に対して、評価する場面を意図的に多く設けて、意欲を伸ばす手立てや読む力を伸ばす手立てを講じている。

▼国語の授業における、グループ③への具体的な手立ての例

意欲などが十分でない	学習の目当てを丁寧に視写させ、励ます。	授業開始時に意欲を鼓舞する評価を行う。
	最初に発表させ、自信をもたせるような評価をする。	思いどおりに発表させ、自信をもたせる。
読む力が十分でない	人物像の読み取りについて、具体例を示す。	具体例や視点などを提示して、課題解決の手掛かりを与え、支援する。
	自分の意見をまとめるための視点を板書し示す。	

確かな学力を育てる取組（つづき）

前述の、4つのグループに分類された生徒の実態と、それに応じた具体的な手立てを、以下のように学習指導案にも盛り込み、学習活動への助言や机間指導、生徒の発表に対する評価などに反映している。

この授業では、太宰治の「走れメロス」を教材として、「本文の叙述に基づいて、主人公のメロスと、対する王ディオニスの人物像の違いを読み取る」ことを目当てとしている。

【国語科 第2学年】教材名：「走れメロス」

過程	学習活動	指導・援助	個を伸ばす手立て(伸)・個を生かす手立て(生)
課題把握	○音読する	・机間指導 姿勢や声の大きさを促したり注意したりする	【生徒】 ・近くへ行つて、はっきり読んでいることを評価する(生) 【グループ①の生徒】 ・姿勢のよさや声の大きさを評価する(伸)
	○本時の目当てを模写する	・定期を用いるなど、丁寧に書いているか確認する	【グループ③の生徒】 ・丁寧に書けていることを、全体の前で評価する(生)
課題追求	○学習の仕方を確認する	・例として、「職業」や「家族」などの視点を提示する	
	○一人読み(個人学習)で、自分の考えをまとめる	・他の視点を自分で考え、ノートに書くよう指示する	【グループ①の生徒】 ・机間指導を行い、書いてある意見を評価し、発表に向けて自信を持たせる(生) 【グループ③の生徒】 ・作業の進まない生徒には他の視点も提示して違いを考えさせる(伸) 【生徒】 ・視点を与えても書かない場合は、具体的な例を提示して書きかせる(伸)
	○仲間読み(全体学習)で考えを交流する	・考えやすい視点(年齢層・職業等)から発表させる ・いろいろな視点を挙げさせ、その違いを発表させる	【グループ②・④の生徒】 ・より多角的な視点を考えるよう助言する(伸) 【生徒】 ・最初に指名して発表させ、評価して自信をもたせる(伸) 【グループ①、③、④の生徒】 ・挙手していたら、生徒の次に指名して発表させ、評価して自信を持たせる(生) 【グループ②の生徒】 ・付け足しや、修正意見を述べよう促す(生) ・次々と指名し、発表させる(生)
まとめ	○メロスとディオニスのそれぞれの人物像を対比して、その違いから分かることをまとめ、発表する	・机間指導で、まとめられない生徒に助言をする	【グループ①、③の生徒】 ・早く書いた生徒の発表に注目させ、考えをまとめる参考にさせる(伸) 【生徒】 ・机間指導で、黒板の記録を振り返るなどさせ、考えが書けるよう支援する(伸) 【グループ②の生徒】 ・他の生徒の発表を踏まえて、いっそう深めたい発表ができるように意識させる(生) 【グループ①、③、④の生徒】 ・グループ②の意見を参考にさせる(伸) 【グループ④の生徒】 ・机間指導で、考えが書けていることを評価する(生)

【個を生かす手立て】

目当てが提示された直後の一人読みの場では、グループ①(読む力はあるが、意欲などが十分でない生徒)に、机間指導でノートの記述の良い点を評価し、考えを交流する場で自信をもって発表できるように支援する。

【個を伸ばす手立て】

一人読みの場ではグループ②(読む力・意欲などがともに高い生徒)に、より高度な読み取りができるように助言する。

【個を伸ばす手立て】

意見を交流する場では、グループ③(読む力・意欲などがともに十分でない生徒)やグループ④(意欲などは高いが読む力が十分でない生徒)の意見をまず取り上げ、発表しやすい雰囲気を作る。

【個を生かす手立て】

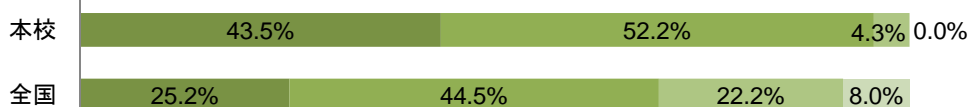
グループ②に、それらの発表内容を踏まえて目当てに迫る発表をさせて、授業をリードさせ、他の生徒へのモデルを示すとともに、学級全体の学びを深めていく。

生徒一人一人の習熟の程度に合わせ、発言の機会など十分に与えることにより、全国調査の生徒質問紙においても、多くの生徒が、普段の授業の中で、自分の考えを発表する機会が与えられていると感じている。

普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。

(平成21年度)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



仲間とともに高め合う取組

○生徒同士による学び合いの活動

本校では、仲間とともに高め合う力を育てるため、班や隣席同士など様々な形態での意見交流や相互評価をふんだんに取り入れた活動を行い、自分の課題を明確に把握し、主体的に取り組もうとする姿勢を養うとともに、仲間とともに高め合い、学び合う雰囲気を醸成している。

【外国語科 第2学年】 教材名：My Dream

①全体の課題の確認

- ・ スピーチに関する本時の課題を全体で確認する。
例) 表情豊かにスピーチを行う。

②個人の課題の確認・個人練習

- ・ 机間指導をしながら、生徒一人一人の課題を確認し、支援する。
例) 表情豊かにスピーチを行うために、ジェスチャーを交えてみる。

③ペア交流（相互評価や助言）

- ・ 班の中でペアを組み、スピーチの練習をさせる。班の中でペアの相手を次々に交代させ、互いに話したり聞いたりして、評価や助言をさせる。
- ・ 分からないことなどを互いに相談したり調べ合ったりするよう指導する。

④シェアリングタイム(中間発表と教師による評価)

- ・ 本時の課題を達成した生徒に全体の前で発表させ、他の生徒に具体的な目標を確認させる。
- ・ 個人の課題について、伸びた生徒に発表させ、良い取組の例として評価する。これにより、全体の方向付けをするとともに、発表に向けての意欲を高めさせる。

⑤班内発表

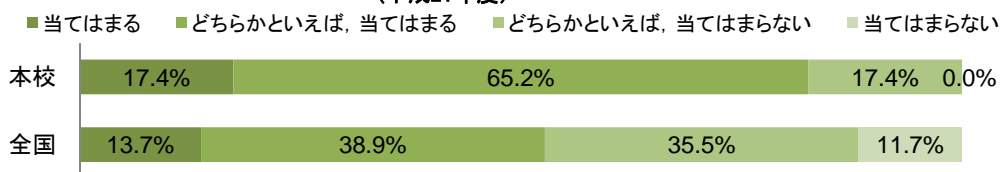
- ・ 自分の所属する班とは異なる班の前で発表させる。別の班の生徒のスピーチに対して、発表後には拍手を贈るなどして、認め合い自信を付けさせる。

⑥全体発表（自己評価と相互評価）

- ・ 班の中で発表順を決めさせ、班ごとに前で発表させる。その際、教師は個の習熟度に応じた指導方針に基づき、生徒の横で必要な支援を行ったり、教室の後ろで評価したりする。
- ・ 生徒には、仲間の良かった姿を相互評価用紙に書かせ、スピーチが終わるごとに数人に発表させる。

全国調査の生徒質問紙において、「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動を良く行っている」と回答した生徒の割合が全国平均と比べて高く、授業の中で話し合ったり、相互に評価し合ったりする活動が定着していることが分かる。

普段の授業では、生徒の間で話し合う活動を良く行っていると思いますか。
(平成21年度)



学習に対する意欲を高める取組

○生徒が主体となった啓発活動

本校では、各学年の代表の生徒と教員によって組織された学習部や、教科ごとに決められた教科系の生徒が、学習習慣の確立や、学習に対する意識の向上を呼び掛け、互いの学習に対する意欲を高める活動を行っている。

(1) 学習部による活動

① 学習部新聞による呼び掛け

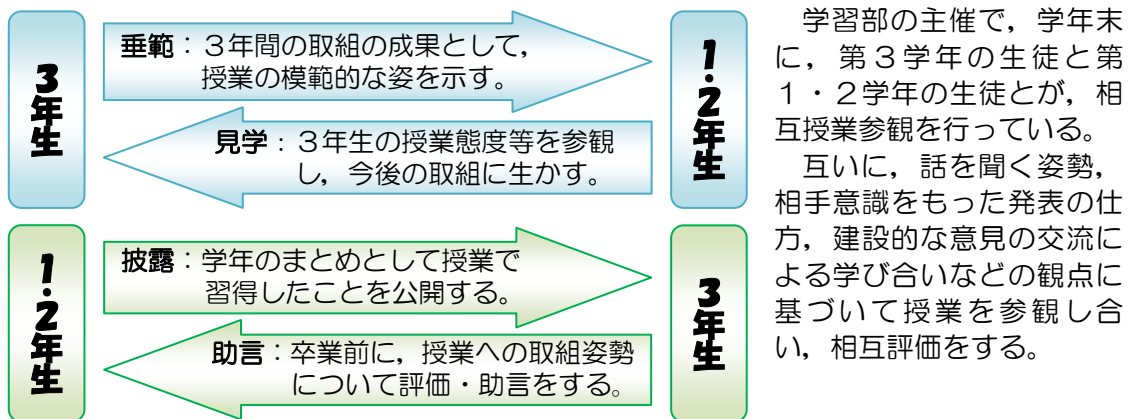
学習部は、月に3回程度、「学習部新聞」を発行している。その中で、教員や発表者の話を聞く時の好ましい姿勢や、自分の意見や考えを発表する時のマナーを確認している。また、少人数集団での話し合い活動のより良い在り方を提案したり、各教科のねらいを伝え、具体的な取り組み方を啓発したりしている。



主体的な授業への参加を呼びかける学習部新聞

生徒は新聞を読み、授業態度の向上を心掛け、活発に意見交流をしたり、落ち着いて考えを深めたりして、日々の学習に生かしている。この活動の積み重ねにより、学習に対する心構えや正しい価値観を身に付け、互いに高め合うことができている。

② 生徒同士による相互授業参観



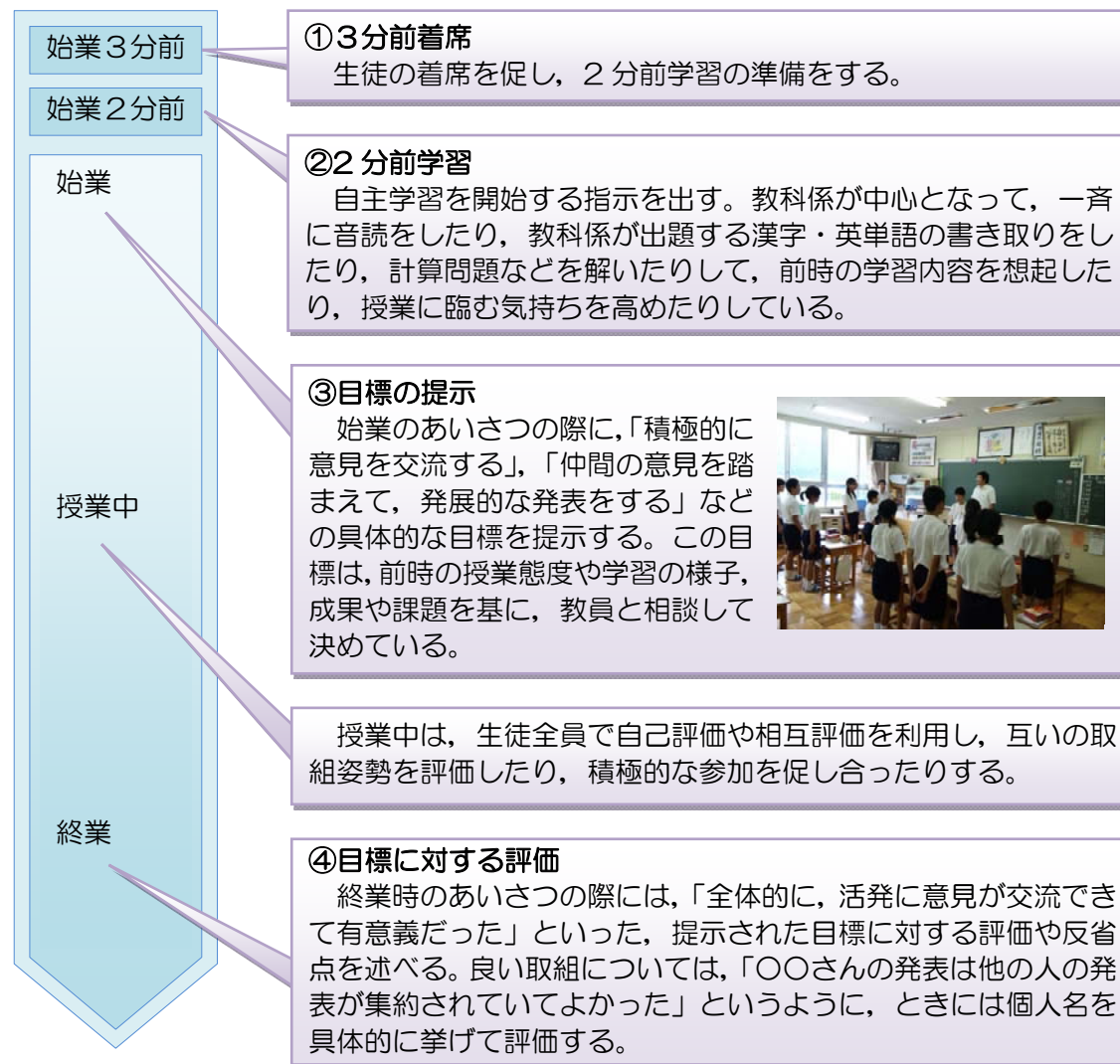
学習に対する意欲を高める取組（つづき）

（2）教科係による活動

本校では、教科ごとに決められた担当係の生徒が、次時の連絡や提出物の集配など教科担任の補助を行う他に次のような活動も行い、教室全体の学習への意識を高めている。

【授業の流れ】

【教科系の活動】



教室からの声

【第3学年の生徒から、第1・2学年の生徒への感想とアドバイス】（授業相互公開後）

- ・ 発表内容に対して、しっかりと注目し、きちんと意見を述べるなど反応が良かった。
- ・ 発表者に対して「賛成」「分かりました」など、積極的に反応している姿が見られた。
- ・ 声が小さく、自信が無さそうな様子が見られた。班での話し合いなどを活発に行えば、自信がもてるようになると思う。

【第1・2学年の生徒から、第3学年の生徒への感想】（授業相互公開後）

- ・ 発表する人が、周りの人に体を向けて発表できていて良かったです。
- ・ 前の人の発表を踏まえて、自分の意見を発表できていて、素晴らしいと思いました。
- ・ 発表する人が資料を使って、根拠などを分かりやすく述べることでできていました。